

# CI-NETの導入事例紹介

業務プロセス・原価管理・会計システムなどを見直し、建設業法令遵守ガイドラインに従って、CI-NETの利用範囲を見積・注文業務から出来高・請求業務に広げた試みを紹介します。

株式会社 フジタ 経営改革統括部 情報システム  
長嶋 基明

1. CI-NET導入・利用の経緯
2. CI-NET関連 システム構成
3. CI-NET出来高請求の導入目的
4. 事前検討から運用開始までの流れ
5. 運用開始後の状況
6. 今後の展開

1995年8月(購買見積)

- オフコンを使ったCI-NET FAXシステム稼動

1999年10月(購買見積)

- インターネットを使ったCI-NET稼動

2003年2月(購買見積・注文)

- CI-NET Lites V2.0 稼動

2003年8月(購買見積・注文)

- ERPパッケージを使ったCI-NET Lites V2.0 稼動

**2013年10月(出来高・請求)**

- 東京支店パイロット作業所にて運用開始

**2015年 2月～**

- CI-NET出来高請求 全店運用開始

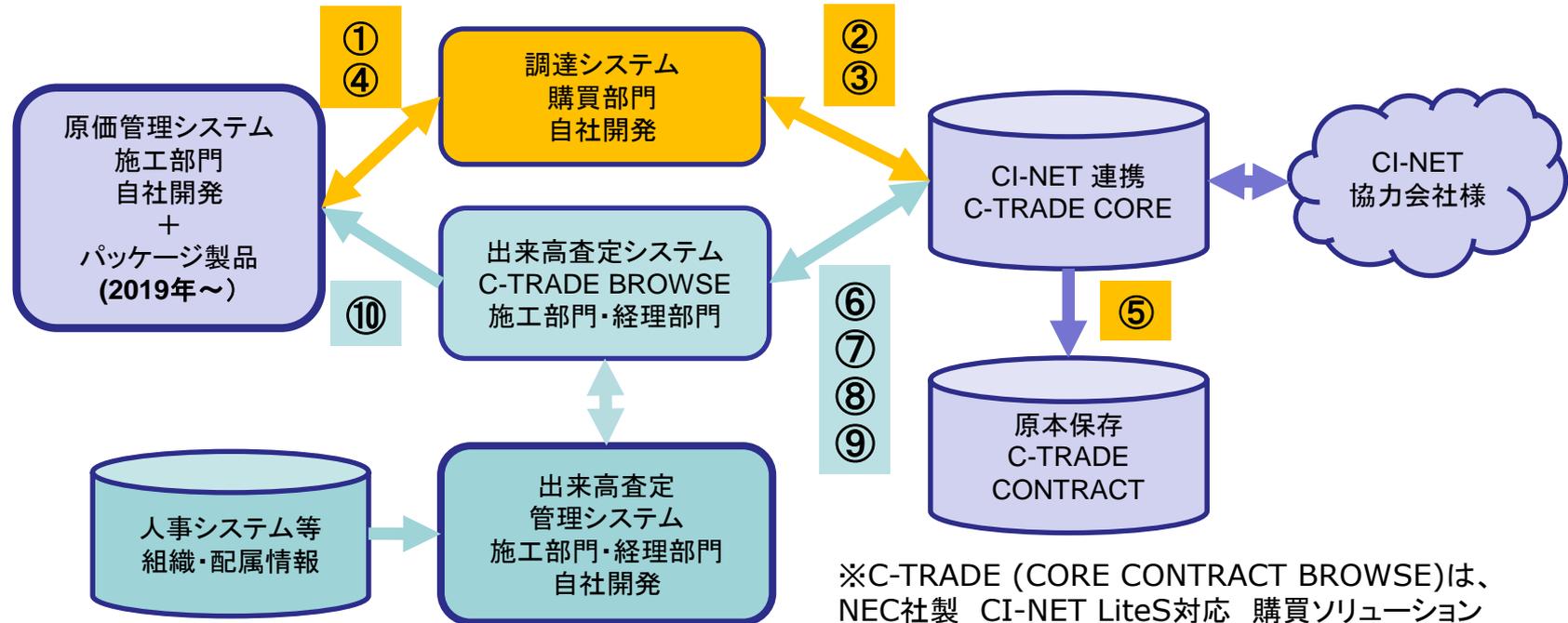
**2015年 9月～**

- CI-NET立替金 運用開始

## 2. 関連システム構成 および CI-NET情報の流れ Fujita Corporation

2003年～ 施工・購買部門が利用する「購買見積～注文」①～⑤

2015年～ 施工・経理部門が利用する「出来高・請求・立替・契約打ち切り」⑥～⑩



### 【購買見積～注文の流れ 2003年～】

- ① 施工部門からの購買見積依頼
- ② 購買部門からの購買見積・注文
- ③ 協力会社からの見積回答・注文請
- ④ 原価管理システムへ契約情報取込
- ⑤ 注文書・請書の原本保存

### 【出来高報告～請求の流れ 2015年～】

- ⑥ 協力会社様からの出来高報告
- ⑦ 施工部門からの出来高査定・打切
- ⑧ 協力会社様からの請求
- ⑨ 経理部門からの請求承認
- ⑩ 原価管理システムへの出来高取込

#### ◆ 社内の業務プロセス改革

- 出来高請求業務の施工部門・管理部門の生産性を向上させる。
- 原価分析精度を向上させる。

#### ◆ これらの実現に向け、コストをかけず、迅速に展開するために、業界標準のCI-NET出来高・請求を利用する。

ステップ1 2011年11月～ 準備・調査

先行する同業他社様へのインタビュー、規約の確認

ステップ2 2012年4月～ 社内プロジェクト発足

- 新しい業務プロセスの検討 4ヶ月
- システム導入法式の検討 1ヶ月
- システム開発とパイロット運用 10ヶ月
- 運用開始準備 2ヶ月

ステップ3 2015年2月～

運用開始、利用範囲の拡大

### ◆先行するゼネコン3社様にインタビューを実施

企業規模、既存のシステム、承認フロー、業務ルールによる差異が判明

- 建築・土木の違い      建築のみ実施 or 建築・土木とも実施
- 購買権限の違い      施工部門で購買 or 購買部門で集中購買
- 原価承認者の違い      施工部門所長 or 母店工事部長
- 出納責任者の違い      施工部門工務 or 母店経理部門
- 契約変更の違い      都度変更注文 or 合意打切

### ◆社内の業務プロセスと、CI-NET規約の出来高、請求業務のデータ交換基本の基本フローを比較・検討し、CI-NET規約に準拠して業務設計する方針を決定

#### 1.1 出来高、請求業務のデータ交換手順

##### (1) 基本フロー

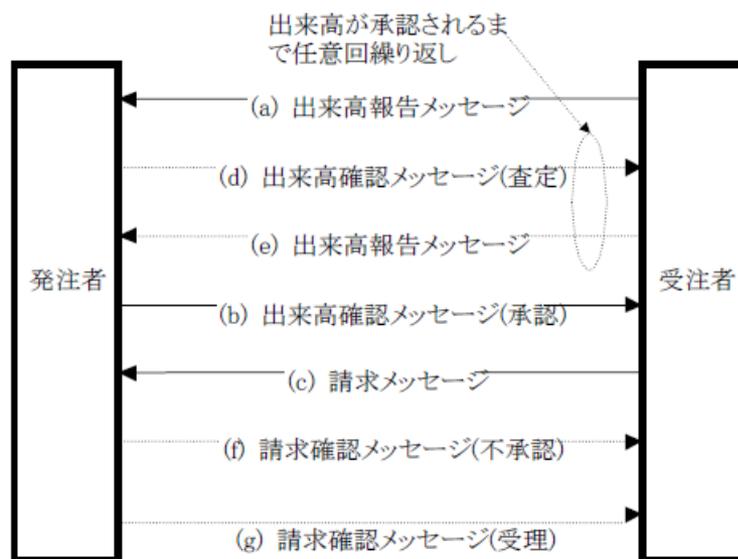


図 B.VII.1-1 出来高、請求業務のデータ交換基本フロー

※ CI-NET LiteS 実装規約V2.1 本編より抜粋

- ◆ 『CI-NET出来高請求 準備プロジェクト』を発足  
施工部門(建築、土木)、購買部門、管理部門(経理、工務、情シス)  
外部ベンダ 2社 (コンサルとして参画)
  
- ◆ システム導入ありきではなく、業務プロセス再構築ありきで取り組んだ
  - 出来高査定の『あるべき業務プロセス』の定義
  - 承認処理と職務権限の確認 (内部統制文書との整合)
  - 『建設業法令遵守ガイドライン』等の対応  
契約変更、下請代金の支払期日、赤伝処理 等
  - 従来の伝票処理と、CI-NET出来高請求処理の混在
  - 社内の既存システムとの連携



### 【比較検討】

- 完全新規開発 vs 既存製品の購入
- 社内システムへの組み込み vs データ連携
- 社内ワークフローの利用 vs 独自承認システムの利用

**結論** : 既存製品利用 + 社内システムへの連携

### 【既存製品の自社向けのカスタマイズ】

- 機能の追加・修正（承認機能・用語変更など）
- 出来高報告・請求の内容をチェックして、内容不備の場合に自動応答する機能を追加
- 合意打ち切りメッセージの自動生成
- 全作業所の出来高・請求の処理状況をモニタリングできる画面の追加

### 【社内既存システムの改修】

- 出来高報告を原価管理システムに取り込む機能を追加
  - 出来高の明細・内訳を突合可能

### 【建築・土木で、各々数カ所でパイロット運用】

### 【協力会社様への周知連絡】

- 協力会社様への運用開始の告知 (FAXで送信 約1,700件)
- 協力会社様向けWebでの情報公開

### 【社内へ周知連絡】

- 各店の管理職に説明会を実施
- マニュアルを配布
- 書面請求とCI-NET出来高請求の切り替え手順作成

2014年12月

商事株式会社  
営業推進部 御中  
株式会社フジタ

【CI-NET出来高・請求の運用開始について】のご案内

謹啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
現在、協力会社の皆様におかれましては、弊社からの「請求書書式の統一」要請につきまして、ご協力をいただいておりますところであります。  
弊社では、さらなる業務プロセス改革を推進するにあたり、その一環として、下記要領にてCI-NETによる出来高請求業務の運用を開始することとなりました。

本FAXは、2012年度以降に弊社よりCI-NET注文をさせていただいた協力会社様のご担当部門に送付しております。  
つきましては、貴社の請求・経理・出納担当部門へのご周知、ご閲覧のほどよろしくお願ひ申し上げます。

主旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

謹白

記

■ 送付資料  
『CI-NET出来高・請求の運用開始について』（本紙含め5ページ）

1. 実施要領
2. 実施に当たっての手続き
3. 出来高報告・請求に対する自動返信（査定、不承認）について
4. その他注意点

※ 最新の情報は、FXネット（フジタ・協力会社ネット <http://fxnet.fujita.co.jp/>）の『電子商取引（CI-NET）のご案内』のリンクに掲載されますので、あわせてご覧ください。

■ FAX送付先について  
本FAXは、2012年度以降のCI-NET確定注文情報に記載の貴社の部署名、FAX番号に基づき送付しております。同一FAX番号で異なる部署で取引がある場合に、複数送付される場合があります旨、ご容赦ください。

■ 本件に関するお問い合わせ先  
株式会社フジタ CI-NET サポート窓口 [fjtoinet@fujita.co.jp](mailto:fjtoinet@fujita.co.jp)

以上

1044 12/000

### 【社内】

- 施工部門・管理部門の業務量の一時的な増加
- 想定外の承認フローの存在

### 【協力会社様】

- 他ゼネコン様とCI-NET取引実績のある協力会社様とは、比較的スムーズに導入が進む
- 他ゼネコン様との違い（値引、部分払割合、出来高調査日）
- 弊社との取引が中心の協力会社様には、個別に対応

### 【メリット】

- 業務の『見える化』が実現した
- 業務スピードが向上した
- チェック業務が簡素化された
- 協力会社様のメリット（請求書発送業務など）

### 【デメリット】

- 画面での確認に慣れない
- 承認が煩雑に感じる

### ◆ 直近の利用状況

- 作業所利用率80%超、出来請求実施率60%超
- 2014年の導入後4年経過も、率は上昇中

### ◆ 問題点の改善と利用性の向上

- チェック画面、承認
- 原価システムのリプレースの対応中

- ◆「業務プロセス改革」の実現のため、CI-NET出来高・請求を導入
- ◆システム導入ありきではなく、業務プロセス再構築ありきで取り組んだ
- ◆既存製品のカスタマイズと、社内システムを連携
- ◆利用率の向上、システム改善を対応中